

転出のご挨拶

元電気電子工学科助教 山本 綱之



本年3月31日付で山口大学を転出し、4月1日付で国立高等専門学校機構津山工業高等専門学校に着任いたしました。この場をお借りして皆様へ、転出

のご挨拶と共に御礼を申し上げたく存じます。

私が山口大学へ赴任したのは今から10年前の平成22年3月、当時は博士学位未取得の学生の身分でした。前年12月にシンガポールで開催された国際会議の会場で偶然お会いした、久保洋教授と現在は大阪大学に勤務されている真田篤志教授から、とあるプロジェクトの話の伺い、研究員として呼んでいただいたことがきっかけです。お話を伺った日の夜に滞在先のホテルから先生方へ履歴書を電子メールでお送りし、あれよあれよという間に、気付けば山口大学で勤務しておりました。物事が進むときには予想外のタイミングで、かつ驚くべきスピードで進むものだと、自身のことながら驚愕、感心したことを、もう10年も前のことですが鮮明に記憶しております。その後、無事に学位を取得し、電気電子工学科の教員として迎えていただくこととなりました。皆様と経験した多くの事項…夜遅くまで(朝早くまで…?) 研究について議論したこと、論文のことで厳しく優しくご指導いただいたこと、全国大会や研究会、国際会議等参加のために国内外の様々な場所へ行ったこと、出張先の海外で電車の乗り方が分からず慌てたこと、担当講義のレポートを添削したこと、学科の写真係を拝命し様々なイベントの写真

を撮影したこと、夏の研究室旅行、常盤祭での研究室の出店、暑い体育館での親和会のソフトバレーボール大会、不慣れな手つきで作った差し入れのお菓子を食べていただいたこと、休日のお洒落なお店でのランチ会等々、楽しいこと嬉しいことだけでなく、もちろん辛いこと悲しいこともありましたが、全てがかけがえのない思い出として、私の記憶に刻まれております。

山口大学を転出したからこそお話できることですが、山口大学での日々を含め、私の人生は極めて危うく、毎日が綱渡りのような人生であると感じております。少々とぼけた性格をしているため、私自身はあまり危機感を感じていない(それが最大の問題…)のですが、現在も含め、私の周りにいらっしゃる方々は私の呑気な生き方をご覧になられ、さぞ呆れておられることと推察します。研究者としても教育者としても、そもそも一人の人間としても未熟な私が、それでも高等教育機関の教育者を続けていられるのは、皆様が支えてくださっているからこそ、と強く感じております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。私が皆様へできる恩返しは、今度は私自身が私の周りにいらっしゃる方々の支えとなれるよう、精一杯努力し続けていくことだと思っております。これまでご指導ご鞭撻を賜り、ありがとうございました。そして今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。末筆ではございますが、皆様のご健勝とご活躍、そして山口大学のご発展を祈念し、転出のご挨拶とさせていただきます。

退職のご挨拶

元社会建設工学科助教(特命) 川本 康司



皆さまにはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私は、令和2年3月31日付で山口大学を退職し、4月から出向元の応用地質(株)に勤務し

ております。山口大学には、平成30年5月に助教(特命)として着任しました。1年11か月という短い期間でしたが多くの方々大変お世話になりました。

山口大学では、国土交通省山口河川国道事務所からの受託研究を担当することとなり、その研究課題は、「国道沿いの地すべりについて、当該地区の管理のあり方を合理的に検討できるよう、現状の斜面安定状態を把握し、将来起こりうる挙動を推定し、必要な対策および安全監視体制について提言する」というものでした。

研究に際しては、社会建設工学科の清水先生をはじめ、中田先生、中島先生、理学部地球圏システム科学科の太田先生にいろいろとご指導いただきました。また、現場の監視では、これまでに使用したことのない計測機器やシステム、そしてそのデータを取り扱うことができ、大変貴重な経験を積むことができました。

研究自体は、対象となった地すべりが比較的緩慢な動きに留まったため、国道の安全性を脅かすこともなく、概ね当初の計画どおりに研究を進め、成し遂げることができました。決して華々しい成果というものではありませんが、なんとか結論にまで辿り着けたことに安堵の胸をなでおろしております。

思い返せば2年前、宇部への赴任が決まった際に工学部卒の上司から、「宇部はのんびりとした田舎で、何もないよ。」と言われたものです。しかし、都会が苦手な私にとって、宇部は住みやすく、大変穏やかな生活を送ることができました。

ただ、この約2年の間には、実にさまざまなことがありました。着任後すぐの西日本豪雨災害から始まり、日本各地での大型台風の来襲や地震、そして、この年度末には新型コロナウイルスが全世界で流行し、卒業式だけでなく、全ての行事を中止、さらには東京オリンピック・パラリンピックの延期という残念な事態となりました。地震や台風などは大きな被害をもたらしますが一過性のものであり、すぐに復旧、復興に取りかかれますが、(執筆時点で)この新型コロナウイルスの流行は全く先の見えない状況にあります。まずは一日も早い終息と、そしていつもどおりの平穏な日々が戻ることを祈念するばかりです。

最後になりましたが、山口大学工学部のさらなるご発展と、先生方、卒業生の皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。今後、いろいろな場でお伺いする機会もあるかと存じますが、より一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。はなはだ簡単ではありますがご挨拶とさせていただきます。

退職のご挨拶

元社会建設工学科助教(特命) 神谷 知佳

ご無沙汰しております。私は、本年3月31日をもって山口大学を退職し、4月1日より基礎地盤コンサルタンツ(株)関東支社に勤務しております。

山口大学には平成30年5月、助教(特命)として着任いたしました。採用は国交省の受託研究の枠で、会社経由で鈴木素之先生からこんな事業・研究があると声をかけていただいたのがきっかけでした。正直、まだ入社して2年目の私にとって出向は二つ返事で引き受けられるようなことではありませんでした。しかし、せっかく声をかけていただきましたし、専門外ではあっても畑違いというほどでもないという範囲でしたので、勉強のためにもチャレンジしてみることにしました。

実際の研究生活は、研究自体よりも自分のことで手いっぱい、思っていたよりずっと大変でした。しかし、たった2年間という短い間ではありましたが、研究成果の一部を投稿した論文は、地盤工学会中国支部の雑誌「建設と地盤」にて奨励賞を受賞することができました。在籍中は鈴木先生をはじめ、研究室や分野をまたいで多くの先生方に支えていただきました。先生方をお願いして授業を聴講させていただいたり、実験の助言をいただいたり、時には飲みに誘っていただきました。この受賞は皆様のご協力なくしてはなかったものだと思っております。私にとっても自信がつかしましたし、研究の成果を少しでも形にして残すことができたことをうれしく思います。改めまして深く御礼申し上げます。

さて、現在は元の会社(基礎地盤C)に戻って地質調査業務に邁進しております、と言いたいところだったのですが、COVID-19の影



響で配属後そのまま在宅勤務状態です。山口大学も大きな影響を受けているのではないのでしょうか。今は自宅でおとなしく勉強することにして、また仕事が動き出した時には自分の専門に加え、山口大学で得た経験を活かして仕事や研究に取り組んでいこうと思います。また、お世話になった皆様にお会いした時にはいい報告ができるよう精進します。

最後に皆様のご活躍と山口大学のご発展をお祈りし、退職のご挨拶とさせていただきます。

(写真は熊本で開催された学会に鈴木研究室の学生と参加した時のものです。)

